

特集

宮城・石巻に藻類培養施設来月着工 仙台のベンチャー



神事で工事の安全を祈願する関係者

微細藻類の製造・販売を手掛けるベンチャー企業「スmeerブジャパン」(仙台市)が石巻市十八成浜に建設する藻類培養施設「清崎モデルファーム」(仮称)の地鎮祭が22日、現地であった。来年1月に着工し、3月に完成する予定。

市有地を借り受け、延べ床面積260平方メートルの建屋と、脂肪酸を含む藻類「ナンノクロロプシス」を培養する鉄筋コンクリートの水槽7基を整備する。総事業費は3億円で国や県、市から計2億円近い助成を受ける。

地元からの新規雇用を含め、従業員は7～10人を見込む。健康食品などに使われるエイコサペンタエン酸(EPA)を抽出した粉末を年間16ト

ン生産し、売上高3億円を目指す。油分が多い藻類から、バイオディーゼル燃料を生産する技術の開発も進める。

屋外の水槽に海水を循環させ、光合成を促すことで藻類を培養する仕組み。十八成浜は培養に適した低温の海水確保が可能で、日照時間も長いことから進出を決めた。

地鎮祭には関係者30人が出席し、原芳道社長は「東日本大震災の復旧、復興に努力している石巻から新しい産業を生み出したい」と述べた。同社は市が誘致を進め、3月に立地協定を結んでいた。

2012年12月23日日曜日

Copyright © KAHOKU SHIMPO PUBLISHING CO.